

20年かけて開発した全身麻酔薬「通仙散」



3世紀頃の中国で活躍した外科医の華佗^{か だ}は麻酔薬を使い、腹部切開手術を行ったとされますが、その実態は全く知られていません。華佗を尊敬していた紀伊の医師の華岡青洲^{はな おか せい しゅう}は、整骨医が治療に使う麻酔薬に着目。20年の歳月をかけて薬草の研究を重ね、数種類の薬草を配合した「通仙散（別名：麻沸散^{ま ふう さん}）」を開発しました。

1804年には、通仙散を使った全身麻酔手術を行い、乳がんの摘出に成功。アメリカでエーテルによる全身麻酔が成功したのは、それから40年近くも後のことでした。

「通仙散」に使用された薬草



チョウセンアサガオ



ヤマトリカブトの一種



ヨロイグサ



トウキ



センキュウ

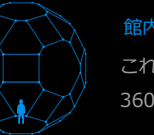


マムシグサ

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** › <https://www.tcm.it.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介しますデジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.